戸建て住宅に参入

日本グランデ

鉄筋3階建てに特化

マンション賃貸も開始

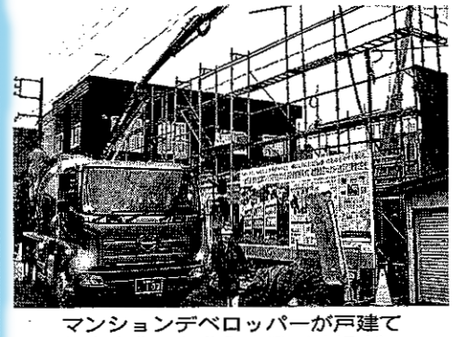
分譲マンション開発の道内大手、日本グランデ（札幌市）は戸建て住宅事業やマンション賃貸事業に乗り出す。分譲マンション開発より短い期間で収益が上がる周辺事業を拡大。収益源を多様にし、資金繰りを安定させながら成長を図る狙いだ。

戸建て住宅事業では鉄筋コンクリート造り3階建てに特化する。まず札幌市内で3戸隣接したミニ開発を手掛け、来年2月に完成する見込み。少なくとも3戸以上の単位で開発し、今後は年に20～30戸の建設をめざす。

鉄筋コンクリート造りで耐震性を高めながらも、3階建てのため小さめの土地で価格を抑えられるとみている。

賃貸マンション事業では9月に札幌市内の中古マンションを購入。すでに入居者がいて、そのまま賃貸収入を得られる。管理はグループ会社が担当し、今後は賃貸マンションの建設も検討する。

新規事業はいずれも今春に設立した子会社、グランホーム（札幌市）を通じて取り組む。分譲マンションは土地の取得から収益が上がるまで2年近くかかり、売り上げの発生に波が生じる。一方で戸建て住宅は半年ほどで資金を回収でき、賃貸マンションは月々の収入がある。住宅関連事業を広げるなかで資金繰りの平準を図る。



マンションデベロッパーが戸建て住宅事業にも参入する（札幌市）

日本グランデは2003年の設立。分譲マンションシリーズ「グランファーレ」は札幌市内に16棟あり、4棟が工事中。共用部にスパやカラオケ、フィットネスなどを設けるのを特徴とする。来年2月に完成するマンションからは電気自動車のカーシェアリングも取り入れる。2012年3月期の売上高は27億円。

十勝2農協に金利軽減

JA道信連　フード特区で優遇

北海道信用農業協同組合連合会（JA北海道信連）は20日、北海道フード・コンプレックス国際戦略総合特区（フード特区）の優遇措置として、十勝の2つの農業協同組合（JA）が金利負担軽減の適用を受けたと発表した。JAめむろとJA士幌町の2農協で、優遇措置を活用し農産物の輸出拡大や国際競争力の強化を目指す。

JA道信連が2農協に融資する資金計7億6400万円について、国が利息の0・7%分を5年間補助する。総額で2000万円程度となる見通し。

JAめむろは建設中のナガイモやジャガイモの貯蔵施設が事業対象となった。ナガイモは輸出の拡大を目指し、ジャガイモは加工向けに輸入品から国産品への切り替えを狙う。JA士幌はこのほど完成した家畜飼料関連施設（TMRセンター）が対象で、輸入飼料から国産飼料への代替を進める。

道内のJAではすでに、JA帯広かわにしなどの十勝の3つのJAが優遇措置の適用を受けている。

福島スキー場 全株売却

加森観光　取得側は営業継続

加森観光（札幌市）は横向高原リゾート（福島県猪苗代町）の株式を、スキー場運営大手のマックアース（兵庫県養父市）に売却する。横向高原リゾートはリフトが4基ある箕輪スキー場と、ホテルプルミエール箕輪（客室97室）を運営。今後はマックアースが経営を引き継ぎ、約40人いる従業員の雇用も維持する。

横向高原リゾートは猪苗代町の第三セクターで、加森観光が97・73%、猪苗代町が2・27%を出資している。加森観光は自社が保有する株式をすべてマックアース側に譲渡する。

横向高原リゾートの取締役会と株主総会で、株式の異動が承認される見通しだ。

横向高原リゾートは1988年に猪苗代町と民間企業が共同出資で設立した。その後、民間出資分が投資ファンドに移り、さらに2007年に加森観光が取得した。福島第1原発の事故の影響で利用客が減少していた。

加森観光は今回の売却で、道外の運営スキー場は安比高原（岩手県八幡平市）と、夏油高原スキー場（同北上市）の2カ所になる。

札幌市内で当日配送

オフィス通販　カウネット、新拠点

コクヨのオフィス通販（京・港）は12月3日、札一る。これまで注文から翌市内に物流拠点を設けることで事務用品や食品、オフィス家具などを早く届ける。オフィス通販は迅速な配送が重視されているため、当日配送で新

札幌市白石区に物流拠点を構える。札幌市内なら午前11時までの注文受け付け分を当日中に配送。札幌市外（離島を除く）でも午後6時までの

る。注文金額が1000円以上なら配送料は無料になる。

カウネットは全国4カ所に物流拠点を持ち、道内はこれまで東京から商

健康・美容飲料

マグロ抽出物と小豆エキス配合

十勝・静岡の産学が開発

十勝と静岡の産学が連携し、小豆とマグロという両地域の特産物を組み合わせた乳飲料を開発した。食品加工販売の江戸屋（帯広市）が販売元となり、21日に発売。ポリフェノールやコラーゲンを豊富に含む健康・美容飲料として主に女性に売り込む。まず十勝や札幌圏、静岡周辺を足掛かりに全国に販路を広げる。

「小豆オーレH&S」＝写真＝は十勝産小豆のさらしあん微粉末素材や小豆エキス「あずきの素」を活用。静岡で水揚げされた天然マグロから抽出したコラーゲンも配合した。粉末を溶かして飲むタイプで、ホットでもアイスでも汁粉のような風味が味わえる。1箱6カップ分で550円。

開発は十勝圏振興機構（とかち財団）と静岡県産業振興財団が中心となり、帯広畜産大学、フーズ・サイエンスセンター（静岡市）などが協力した。販売は帯広物産協会も支援する。

ニセコのホテル運営などを受託

アビリタス

ホテル運営支援のアビリタスホスピタリティ（東京・港）は12月に開業するホテル「ワン・ニセコ・リゾート・タワーズ」（ニセコ町）の資産管理と運営を受託する。同社が道内でホテル運営を受託するのは釧路全日空ホテル（釧路市）に次ぐ2施設目。国際的なリゾート地のニセコ地区でホテル運営を手掛け、国内外のスキー客の獲得を目指す。

ワン・ニセコは地上11階建ての高級ホテルで、投資会社のケンブリッジ・ベンチャー・パートナーズ（東京・港）が所有する。全室スイートルームの客室は105室あり、レストランや温泉などの付帯施設を備える。主に長期滞在客や家族客の利用を見込む。